

## 『東洋文化学科年報』 『アジア文化学科年報』

## 『アジア学科年報』

## 通巻第1号～第30号 総目次

追手門学院大学国際教養学部アジア学科は文学部アジア文化学科の改組によって誕生し、また、文学部アジア文化学科は文学部東洋文化学科の改組によって誕生した。名称の変更とともに、カリキュラムはじめ学びの内容はとうぜん変化してきたが、教員の専門分野や学科の教学・研究の重要な部分は、1966年の開学とともに誕生した文学部東洋史学科以来のものを多く受け継いできた。またそうであるからこそ、この雑誌も、それぞれの時代の学科の呼称を掲げつつ、体裁の変更なく今号まで同じ雑誌として刊行されている。このたび、通巻第30号に達したので総目次と執筆者索引を掲載する。

なお、この総目次の作成にあたっては、本学科2年生の池田理沙さんと村上万実さんに入力の作業をしていただき、これを松家裕子が整理した。

□ 『東洋文化学科年報』 第1号（通巻第1号）1986年10月 発刊のことば……………	金 谷	治（1）
《論考》		
新出土資料と中国古代思想史……………	金 谷	治（2）
十三塚と十三オボーその関連をめぐって……………	岡 崎	精 郎（12）
マカオ史瞥見—中国最後の植民地……………	伊 原	沢 周（22）
後七日御修法の実録……………	村 主	恵 快（26）
琵琶湖岸の変遷に関する一事例……………	金 田	章 裕（31）
—明治初期幸津川村地籍図をめぐって—		
神功・応神朝の実年代について……………	奥 田	尚（38）
曹禺の新作『王昭君』—その劇本について……………	岡 本	和 子（44）
百済の遼西経営について……………	金	瑛 二（49）
—「遼西領有」説の基礎的検討を中心に—		
《研究ノート》		

上海・杭州の旅……………	阿頼耶 順 宏	(67)
インド洋に関する二つの国際会議について……………	近 藤 治	(72)
「抑圧」された近代人と身体論……………	上 村 祥 二	(85)
ギルギット・フンザ紀行……………	佐 藤 啓	(91)
卒業論文代表作要旨……………		(96)
卒業論文題目・氏名……………		(107)
卒業論文演習履修者氏名……………		(108)
一九八五年度の東洋文化学科……………		(109)
一九八五年度の各ゼミ……………		(111)
東洋文化学科開講科目一覧……………		(114)
編集後記……………		(129)

□『東洋文化学科年報』第2号（通巻第2号）1987年11月

《追悼 小畑龍雄教授》

小畑龍雄先生の御冥福を……………	金 谷 治	(1)
小畑龍雄先生を憶う……………	岡 崎 精 郎	(2)
西隣研究室の小畑先生……………	近 藤 治	(6)

《論考》

サハリン（樺太）ギリヤク族調査行……………	岡 崎 精 郎	(9)
—高橋盛孝博士の業績の一端について—		
謝 冰 瑩—女兵、作家の軌跡—……………	阿頼耶 順 宏	(20)
孫文の共和宣言について……………	伊 原 沢 周	(32)
—世界の友邦諸国民にあてた声明—		

日本列島への仏法伝来、および日本列島内での漢字公開開始の年代について ……………	中小路 駿 逸	(47)
---	---------	------

《研究ノート》

イギリスの中のインド……………	近 藤 治	(58)
平安京西京極大路の地割遺構……………	金 田 章 裕	(63)
茨田堤の雁の子の伝承……………	奥 田 尚	(72)
日本人のパリ・コミュニケーション……………	上 村 祥 二	(77)
<i>Nuzhat al - Qulūb</i> に現れるルームの諸都市……………	井 谷 鋼 造	(92)

中国縦断旅行記	柴田 孝	(101)
卒業論文代表作要旨		(109)
卒業論文題目・氏名		(131)
卒業論文演習履修者氏名		(133)
一九八六年度の各卒業論文演習ゼミ		(134)
一九八六年度の東洋文化学科		(138)
東洋文化学科開講科目一覧		(140)
編集後記		(156)

□『東洋文化学科年報』第3号（通巻第3号）1988年11月

《論考》

儒家的合理主義—孔子の思想を中心に—	金 谷 治	(1)
東洋人の西洋世界への開眼	伊 原 沢 周	(10)
石濱・石田両博士学術交流記録抄（その三）	岡 崎 精 郎	(28)
諷刺『マイナス十歳』—中国文芸界の新しい動き—	阿頼耶 順 宏	(39)
古代日本文学における海洋像および人体像の変遷について		
……………	中小路 駿 逸	(52)
王家の移転伝説の原型について	奥 田 尚	(64)
『湖海文伝』序類訳注		
……………	金 瑛二・中村武司・川村 智・井階 貢・柴田 孝	(77)

《研究ノート》

佐賀県小城郡の「擬似」条里的小字名について	南 出 真 助	(89)
アグリル広場で考えること	上 村 祥 二	(100)
インドにおける真言密教の二つの系譜	村 主 恵 快	(105)
アクバル箴言集（一）	近 藤 治	(110)
<i>Nuzhat al - Qulūb</i> に見えるアルメニアとジャズィーラの諸都市		
……………	井 谷 鋼 造	(114)
オーストラリア旅行記	上 田 栄太郎	(124)
印度交換留学記	印 丸 亮 子	(133)
家—巴金—	桑 原 裕 子	(147)
卒業論文代表作要旨		(151)

卒業論文題目・氏名	(178)
卒業論文演習履修者氏名	(180)
一九八七年度の各卒業論文演習ゼミナール	(181)
一九八七年度の東洋文化学科	(185)
東洋文化学科開講科目一覧	(188)
編集後記	(204)

□『東洋文化学科年報』第4号(通巻第4号)1989年11月

金谷治・佐藤圭四郎両先生の御定年を迎えて	近藤 治 (1)
警 咳一金谷・佐藤圭四郎両先生のこと	中小路 駿 逸 (5)

《論考》

張芸謀一人と作品	阿頼耶 順 宏 (7)
神武紀の「八紘為宇」の令について	中小路 駿 逸 (21)
王家の始祖伝承と亀	奥 田 尚 (30)
佐賀県田手川河道変遷に関する一考察	南 出 眞 助 (39)
近衛内閣と汪精衛の重慶脱出	伊 原 沢 周 1

《資料》

「民族の苦悩—創設期の建国大学をめぐる—」解説

岡崎 精 郎 (55)
-------------

《研究ノート》

<i>Nuzhat al - Qulūb</i> に見えるアゼルバイジャン周辺の諸地方	井 谷 鋼 造 (74)
---	--------------

卒業論文代表作要旨	(83)
卒業論文題目・氏名	(106)
卒業論文演習履修者氏名	(108)
一九八八年度各卒業論文演習ゼミナール	(109)
一九八八年度後期・一九八九年度前期の東洋文化学科	(112)
東洋文化学科開講科目一覧	(114)
編集後記	(129)

□『東洋文化学科年報』第5号(通巻第5号)1990年11月

## 《論考》

- 『文字』考……………武田 秀夫 (1)
- 汪精衛と近衛首相—ハノイの滞在とその苦悩—……………伊原 沢 周 (17)
- 王 朔—人と作品—……………阿頼耶 順 宏 (38)
- 居処観と自我観と文学……………中小路 駿 逸 (54)
- 日本・西欧・与謝野晶子—
- 記紀の五世紀以前部分の史料性格 (一) ……………奥 田 尚 (66)
- ヤバナ (yavana) —イオニア人 (Ionians) ……………村 主 恵 快 (77)
- ペルシア人を介した古代インド人とイオニア植民地との史的連関—
- 《研究ノート》
- 『長恨歌』とその子孫たち……………高 橋 文 治 (90)
- 近世における「坪」地名の存続と改廃……………南 出 眞 助 (102)
- 佐賀県神埼郡の事例から—
- アクバル箴言集 (二) ……………近 藤 治 (119)
- Nuzhat al - Qulūb* に見えるタブリーズ市……………井 谷 鋼 造 (126)
- 《資料》
- 「民族の苦悩—創設期の建国大学をめぐる (二)」解説  
……………岡 崎 精 郎 (138)
- 日中故事成語「大同小異」考……………方 暁 芬 (157)
- 島崎藤村『家』の課題について……………鄭 偉 巍 (159)
- 旅行日記……………山 口 道 子 (162)
- イギリス、トルコ、フリー旅行の三十五日—
- 卒業論文代表作要旨…………… (176)
- 卒業論文題目・氏名…………… (196)
- 一九八九年度各卒業論文演習ゼミナール…………… (200)
- 一九八九年度後期・一九九〇年度前期の東洋文化学科  
…………… (204)
- 編集後記…………… (208)

□ 『東洋文化学科年報』 第6号 (通巻第6号) 1991年11月

## 《論考》

沈従文—評価を歴史に委ねた作家—	阿頼耶 順 宏 (1)
八世紀の日本から唐への国書	奥 田 尚 (13)
一九世紀の西欧列強圧迫化における日中両国の伝統文化とその民族精神	伊 原 沢 周 1
《研究ノート》	
インド中世社会の成立とバラモン	近 藤 治 (31)
仏法の伝来と漢字の国内公用開始についての補足ならびに訂正	中小路 駿 逸 (35)
裏返しの『竹取物語』—葉『十三夜』偶感—	永 吉 雅 夫 (48)
嚴遵『道德真經指帰』の思想一斑	武 田 秀 夫 (52)
狩猟のたのしみ—元代散曲と卷狩—	高 橋 文 治 (61)
《資料》	
「民族の苦悶—創設期の建国大学をめぐる— (三)」解説	岡 崎 精 郎 (71)
〈会員の研究〉	
『霍小玉伝』をめぐる	吉 田 さより (88)
アブ・シンベルのハピ	山 本 ま き (91)
卒業論文代表作要旨	(99)
卒業論文題目・氏名	(116)
一九九〇年度各卒業論文ゼミナール	(121)
一九九〇年度後期・一九九一年度前期の東洋文化学科	(126)
編集後記	

□『東洋文化学科年報』第7号(通巻第7号)1992年11月

《論考》

インド史の特質について	近 藤 治 (1)
恋の陶酔—元代散曲と『会真記』—	高 橋 文 治 (9)
『莊子』の「遊」小考	武 田 秀 夫 (20)
張芸謀『紅橙』をめぐる—激情から沈潜へ—	阿頼耶 順 宏 (29)
書信から見る辛亥革命資金の調達	伊 原 沢 周 (44)
特別な一日—芥川『開化の殺人』の後景—	永 吉 雅 夫 (60)

『仏国記』と『入唐求法巡礼行記』とに見られる、仏法および航海の記事について—祈願の対象、および航走法の問題—	中小路 駿 逸 (67)
「神武東征研究」批判	奥 田 尚 (78)
言語の表象化—あるいは図像化された近代—	原 田 達 1
《研究ノート》	
トルコ共和国滞在の一年	井 谷 鋼 造 (86)
西田幾多郎博士と一受業生—金沢から京都へ—	岡 崎 精 郎 (99)
《会員の研究》	
格助詞「から」の用法分離とその中国語表現について	
.....	中 村 俊 弘 11
『鎌倉夫人』と『傷逝』について	王 惠 蓉 (108)
—反抗する女性たち—	
《資料》	
卒業論文代表作要旨	(109)
卒業論文題目・氏名	(133)
一九九一年度各卒業論文ゼミナール	(137)
一九九一年度後期・九二年度前期の東洋文化学科	(143)
編集後記	

□ 『東洋文化学科年報』 第8号 (通巻第8号) 1993年11月

岡崎精郎教授追悼号

《追悼 岡崎精郎教授》

(遺 稿)

東洋文化学科年報第八号発行に寄せて	岡 崎 精 郎 (1)
中江兆民の「戯書」をめぐって	岡 崎 精 郎 (2)
(追悼編)	
追悼 岡崎精郎教授	東洋文化学科 (11)
主要業績一覧及び略年譜	(12)
岡崎精郎先生を悼む	伊 原 沢 周 (17)
岡崎先生のこと	阿 頼 耶 順 宏 (21)
岡崎精郎教授の急逝を悼む	近 藤 治 (23)

## 《論考》

- 「少年中国学会」と毛沢東……………伊原 沢 周 (26)
- 魏晋の身軽さの一断面……………武田 秀 夫 (42)
- 「万家訴訟」から『秋菊打官司』へ……………阿頼耶 順 宏 (54)
- 中国映画『秋菊の物語』—
- 唐代文献の日本像—その変化相と連続相と—……………中小路 駿 逸 (70)
- 小説『内灘夫人』の現代史……………奥田 尚 (82)
- 《研究ノート》
- 女のたくらみ—『水滸伝』の世界—……………高橋 文 治 (96)
- 『歌謡』週刊索引(1) 著訳名篇……………松家 裕 子 1
- 「うひかうぶり」と「女はらから」……………永吉 雅 夫 (104)
- 江戸戯作による『伊勢物語』初段—
- 知識の発達心理学……………落合 正 行 (110)
- 《会員の研究》
- 大観園の幻……………平山 裕 世 (120)
- 大学での中国語通訳の授業への一考察……………中村 俊 弘 13
- 専門課程での中→日訳を中心に—
- アジタ・ケーサカンバリン説に見られる「kāya」をめぐる  
……………辻本 俊 郎 23

## 《資料》

- 卒業論文代表作要旨…………… (123)
- 卒業論文提出者の題目と氏名…………… (147)
- 一九九二年度各卒業論文ゼミナール…………… (152)
- 教員のページ…………… (157)
- 一九九二年度後期・九三年度前期の東洋文化学科…………… (169)
- 編集後記

□『東洋文化学科年報』第9号(通巻第9号)1994年11月

## 《村主恵快教授の御退職にあたって》

- 退任にあたっての所感……………村主 恵 快 (1)
- 村主恵快教授 略歴・主要業績…………… (9)

村主恵快教授との二十余年……………	近藤	治	(11)
村主恵快教授—思い出すことども—……………	奥田	尚	(14)
《講演録》			
歴史上における茶の問題……………	佐伯	富	(16)
《論考》			
王戎・王衍の時代……………	武田	秀夫	(23)
傅玄楽府初探……………	松家	裕子	(34)
政治協商会議と人民中国の誕生……………	伊原	沢周	(52)
寧瀛『北京好日』—あるいは映画の見方について—	阿頼耶	順宏	(70)
別島存疑—中国文献の東海のイメージへの考察—	中小路	駿逸	(81)
撰津国島下群安威の古代環境……………	奥田	尚	(91)
—難波日鷹吉土・穂積氏・中臣藍氏など—			
《研究ノート》			
「絵図」という語の初見について……………	南出	眞助	(104)
アクバル箴言集(三)……………	近藤	治	(116)
《翻訳》			
曹旭『乞食同行記』……………	松家	裕子	(122)
《会員の研究》			
中国の詩に詠まれた月……………	神戸	由美	(122)
たまちゃんのイラン観察記……………	紀伊	現子	(131)
《資料》			
卒業論文代表作要旨……………			(144)
卒業論文提出者の題目と氏名……………			(176)
一九九三年度各卒業論文ゼミナール……………			(181)
教員のページ……………			(187)
一九九三年度後期・九四年度前期の東洋文化学科……………			(199)
編集後記			
□『東洋文化学科年報』第10号(通巻第10号)1995年11月			
《年報10号発刊にあたって》			
近況など……………	柿本	奨	(1)

あのことろと今と……………	金 谷 治 (3)
《論考》	
インドの文化と社会……………	近 藤 治 (6)
呂公についての一考察……………	楠 山 修 作 (17)
抗日戦争期における日本人民の反戦運動……………	伊 原 沢 周 (33)
蕭紅『生死の場』……………	阿頼耶 順 宏 (57)
「上宮王家」滅亡をめぐる二、三の問題……………	奥 田 尚 (78)
「今様歌」の起源と若者たち—歌謡・芸能史と年齢層とのかかわり、および 日本文化の年齢観への一考察—……………	中小路 駿 逸 (90)
《研究ノート》	
原毅・元覺考……………	高 橋 文 治 (103)
母の声—『杜春子』と『ハッサン・カンの妖術』—……………	永 吉 雅 夫 (113)
《会員の研究》	
『青い山脈』について……………	李 景 芳 (120)
《資料》	
卒業論文代表作要旨……………	(122)
卒業論文提出者の題目と氏名……………	(147)
一九九五年度各卒業論文ゼミナール……………	(152)
教員のページ……………	(158)
一九九四年度後期・九五年度前期の東洋文化学科……………	(170)
編集後記	

□『東洋文化学科年報』第11号（通巻第11号）1996年11月

《論考》	
漢代女性力役不課論……………	楠 山 修 作 (1)
中国の政党と軍隊……………	伊 原 沢 周 (14)
中国映画『スケッチ・オブ・Peking』と『上海ルージュ』 ……………	阿頼耶 順 宏 (39)
唐代関係史料に見える日本の国号について……………	中小路 駿 逸 (52)
古代日本社会に対する「家父長制」理解について……………	奥 田 尚 (64)
中世イランの老いと若さ……………	井 谷 鋼 造 1

## 《研究ノート》

中国の隠逸思想—序—……………武 田 秀 夫 (83)

ピーター・マンディのムガル帝国紀行……………米 沢 麻 理 19

## 《会員の研究》

浅析《度十公園林》的重点助詞、漢訳以及全文構思…李 景 芳 (101)  
—我読宮沢賢治作品之一—

## 《資料》

卒業論文代表作要旨…………… (106)

卒業論文提出者の題目と氏名…………… (135)

一九九五年度各卒業論文ゼミナール…………… (139)

教員のページ…………… (145)

一九九五年度後期・九六年度前期の東洋文化学科…………… (158)

## 編集後記

## □『東洋文化学科年報』第12号（通巻第12号）1997年11月

## 《特別寄稿》

東洋文化学会・東洋文化学科のこの一〇年ほどの動きと私

……………奥 田 尚 1

## 《論考》

女子百戸牛酒について……………楠 山 修 作 (27)

中国の政党政治における民主諸党派の役割とその苦境

……………伊 原 沢 周 (40)

至元十七年の放火事件……………高 橋 文 治 (62)

藤原一中臣氏の出自と実態……………奥 田 尚 (77)

自由民権運動と西欧政治思想……………中 村 啓 佑 1

(1) 運動概略 1784 - 1881—比較文化の視点から—

## 《研究ノート》

書かれなかった『お弓』……………永 吉 雅 夫 (97)

—広津柳浪『河内屋』覚書—

西アジアにおける「音」の展開……………大 城 洋 子 12

## 《会員の研究》

「忘れられた思想家」と「封建制批判」……………吉川拓也 (108)	
—安藤昌益研究—	
『注文の多い料理店』の写作技巧……………李景芳 (116)	
元朝期鷹狩り史料一考……………沖田道成 (122)	
胡適の実験主義とその評価……………宮西英人 (129)	
《資料》	
卒業論文代表作要旨…………… (136)	
卒業論文提出者の題目と氏名…………… (163)	
一九九六年度各卒業論文ゼミナール…………… (169)	
教員のページ…………… (174)	
一九九六年度後期・九七年度前期の東洋文化学科…………… (187)	
編集後記	
□『アジア文化学科年報』第1号 (通巻第13号) 1998年11月	
アジア文化学科誕生にあたって……………楠山修作 (1)	
《講演録》	
孔子と老子、両人の風貌とその思想……………金谷治 (3)	
—合理主義と非合理主義—	
《論考》	
占田・課田論……………楠山修作 (27)	
王国維の号「観堂」について……………伊原沢周 (40)	
清末における政治小説への考察 (一) ……李慶国 (62)	
繆襲とその作品……………松家裕子 (74)	
唐詩の日本古代史像・補足……………中小路駿逸 (86)	
—阿倍仲麻呂・空海・橘逸勢・円仁・円載らの参与—	
歩く厨子王—鷗外『山椒太夫』と説教—……………永吉雅夫 (99)	
武烈以前の『古事記』『日本書紀』の骨格構想について (上)	
……………奥田尚 (111)	
《研究ノート》	
清代の政治に関する研究 補遺……………大谷敏夫 (125)	
日本の古代中世における港の空間構成……………南出眞助 (139)	

元朝期鷹狩り史料一考（二）……………	沖 田 道 成 (155)
《資料》	
卒業論文代表作要旨……………	(169)
卒業論文提出者の題目と氏名……………	(195)
一九九七年度各卒業論文ゼミナール……………	(199)
教員のページ……………	(203)
一九九七年度後期・九八年度前期の東洋・アジア文化学科……………	(227)
編集後記	

□『アジア文化学科年報』第2号（通巻第14号）1999年11月

《論考》

秦漢爵制に関する一考察……………	楠 山 修 作 (1)
清末における政治小説の考察（二）……………	李 慶 国 (13)
中央人民広播電台の少数民族語放送について……………	柴 田 孝 (23)
アヅマヂ・キナカ・ヒトノクニ……………	中小路 駿 逸 (39)
—古代日本の地理区分への補説・『更級日記』、『伊勢物語』、謡曲『隅田川』などによって—	
徐の偃王の夫余の東明王物語……………	奥 田 尚 (51)
—東夷世界の移動、拡大と物語の伝播—	
自由民権運動と西欧政治思想……………	中 村 啓 佑 1
(2) 遣外使節団の記録3編に見る西欧政治制度—比較文化の視点から—	
《研究ノート》	
クビライの令旨二通—もう一つの「道仏論争」—……………	高 橋 文 治 (64)
アッタールの『聖者列伝』 <i>Tadhkirat al-Awliya'</i> に見えるハッラージュ……………	藤 本 淳 子 15

《資料》

卒業論文代表作要旨……………	(77)
卒業論文提出者の題目と氏名……………	(101)
一九九八年度各卒業論文ゼミナール……………	(106)
教員のページ……………	(111)
一九九八年度後期・九九年度前期の東洋・アジア文化学科……………	(140)

## 編集後記

□『アジア文化学科年報』第3号（通巻第15号） 2001年11月

## 《論考》

算と賦との研究……………楠山修作（1）

鄒牟王物語をめぐる二、三の問題

—好太王碑文と牟頭婁墓誌の鄒牟王物語—……………奥田尚（14）

## 《研究ノート》

ラクナウと周辺に、南アジア・イスラームの多様性の一端を求めて

……………加賀谷寛（27）

中国児童文学 苦渋のリポート……………藤井朋子（41）

阿含・ニカーヤに見る六師外道の伝承について……………辻本俊郎 1

## 《公開発表会から》

ベトナム散歩（一）……………垣内美里（56）

ベトナム散歩（二）……………神田珠恵（58）

麗しの台湾……………伊藤健太（61）

バングラデシュ見聞記……………小川裕子（65）

## 《資料》

卒業論文代表作要旨……………（69）

卒業論文提出者の題目と氏名……………（91）

一九九九年度各卒業論文ゼミナール……………（96）

教員のページ……………（102）

一九九九年度後期・二〇〇〇年度前期の東洋・アジア文化学科……………（123）

## 編集後記

□『アジア文化学科年報』第4号（通巻第16号） 2001年11月

中小路・加賀谷両先生 御退職記念号

中小路、加賀谷両先生を送る……………井谷鋼造（1）

中小路先生の御退職にあたって……………永吉雅夫（3）

加賀谷先生のこと……………正信公章（6）

中小路駿逸先生 略歴・著作目録……………（9）

加賀谷寛先生 略歴・著作目録……………	(24)
《論考》	
南島歌謡および本土民謡にあらわれた航海者の視座…中小路 駿 逸	(30)
—その日本の文学の視座史のなかでの位置—	
華陽夫人、Who? —三国妖婦譚の世界・その一— …永 吉 雅 夫	(43)
《研究ノート》	
楽府「艶歌行」古辞を読む……………松 家 裕 子	(76)
牟宗三—宗明理学の三系統説について—……………戸 田 哲 也	(97)
戦後アメリカ学界の清代史研究動向……………大 谷 敏 夫	(107)
天台系論書に引用される『無量寿経論』について……………辻 本 俊 郎	(119)
資料：『太玄真一本際経』第二、三注 ……………武 田 秀 夫	1
《資 料》	
卒業論文代表作要旨……………	(127)
卒業論文題目・氏名……………	(149)
二〇〇〇年度各卒業論文ゼミナール……………	(155)
教員のページ……………	(164)
二〇〇〇年度後期・二〇〇一年度前期の東洋・アジア文化学科……………	(180)
編集後記	

□『アジア文化学科年報』第5号（通巻第17号） 2002年11月

大谷敏夫先生 御退職記念号

大谷敏夫先生を送る……………楠 山 修 作	(1)
大谷敏夫博士略歴・著作目録……………	(4)
《論考》	
魯迅『鑄劍』覚書……………浅 野 純 一	(17)
雅楽『越天楽』の旋律と歌謡の歌詞……………中小路 駿 逸	(32)
—「越天楽今様」・「越天学歌物」、およびこの種の歌曲と九州文化との かかわりについて—	
《研究ノート》	
『太上一乗海空智藏経』第二の覚書（一）……………武 田 秀 夫	(43)
「中国の歴史と文化をみつめて」……………大 谷 敏 夫	(51)

恋と相撲と……………	永吉雅夫 (64)
— 『本朝二十不孝』 「無用の力自慢」 の周辺—	
妙峰山のまつりと粥茶歌……………	松家裕子 1
アフガーニスタンの歴史と現在……………	井谷鋼造 16
《資料》	
卒業論文代表作要旨……………	(70)
卒業論文題目・氏名……………	(98)
二〇〇一年度各卒業論文ゼミナール……………	(101)
教員のページ……………	(106)
二〇〇一年度後期・二〇〇二年度前期のアジア文化学科……………	(123)
編集後記	

□ 『アジア文化学科年報』 第6号 (通巻第18号) 2003年11月

《論考》

首都博物館蔵「妙峰山進香図」について……………	松家裕子 (1)
蘇我入鹿殺害事件をめぐる皇極紀の記事……………	奥田尚 (49)
『万葉集』 巻第一が「雅歌」であった可能性、および第一番歌が問答体の相 聞歌であることの意味について……………	中小路駿逸 (68)
OZUのなかの芥川龍之介……………	永吉雅夫 (81)
『生まれてはみたけれど』『一人息子』と『愉しき哉保吉君』	

《研究ノート》

文天祥評価に関する一考……………	堀内洋材 (105)
サマルカンドの通称ビービー・ハヌム・マスジドの定礎碑文について ……………	井谷鋼造 1

《資料》

二〇〇二年度卒業研究

題目・氏名一覧……………	(117)
各ゼミナール代表作要旨……………	(123)
各ゼミナール紹介……………	(153)
教員のページ……………	(161)
二〇〇二年度後期・二〇〇三年度春学期のアジア文化学科……………	(170)

## 編集後記

□『アジア文化学科年報』第7号（通巻第19号）2004年11月

## 楠山修作先生 御退職記念号

楠山修作先生を送る……………武田 秀夫（1）

楠山修作博士略歴・著作目録……………（3）

## 《論考》

古代東アジアの歴史叙述に関する序説……………奥田 尚（9）

—『史記』を手がかりとして—

清末経世学と経世思想—幕末から明治にかけての

日本の学術・思想の変遷と比較して……………大谷 敏夫（29）

ブッダの悟りと、キリストによる救いおよび西欧哲学との対応性

—「ワレ」の存在のしかたをめぐって—

—付けたり「如是我聞」の「我」について……………中小路 駿逸（41）

## 《研究ノート》

『無量寿経論』テキスト考（その2）……………辻本 俊郎（54）

—明版・清版を中心として—

## 《資料》

二〇〇三年度卒業研究

題目・氏名一覧……………（68）

修士論文 題目・氏名一覧……………（68）

各ゼミナール代表作要旨……………（69）

各ゼミナール紹介……………（94）

教員のページ……………（100）

二〇〇三年度秋学期・二〇〇四年度春学期のアジア文化学科……………（102）

## 編集後記

□『アジア文化学科年報』第8号（通巻第20号）2005年11月

## 《論考》

同治中興考……………大谷 敏夫（1）

日本海海戦と「併行」の話……………中小路 駿逸（20）

—軍事と文学のつながりについて—

古代東アジアの歴史叙述に関する序説（二）……………奥 田 尚 (32)

—高句麗の初期の王の名を手がかりに—

郭沫若と文求堂主人田中慶太郎……………李 慶 国 (49)

—重ねて『郭沫若致文求堂書簡』の誤りを訂正する—

ベトナムにおける情報公開とその利用……………筒 井 由起乃 (61)

—ドイモイ下の農村研究を中心に—

『元朝秘史』における色彩語彙……………田 原 亜紀子 1

—特に「kōkō」と「börte」を中心にして—

《研究ノート》

伝覚如書写本『無量寿経論註』について……………辻 本 俊 郎 (76)

トルコ共和国イスタンブル市内にあるファーティフ・スルターン・ムハンマ

ド時代のふたつの碑文……………井 谷 銅 造 15

《資料》

二〇〇四年度卒業研究

題目・氏名一覧…………… (82)

修士論文 題目・氏名一覧…………… (87)

各ゼミナール代表作要旨…………… (88)

各ゼミナール紹介…………… (105)

教員のページ…………… (111)

二〇〇四年度秋学期・二〇〇五年度春学期のアジア文化学科…………… (117)

編集後記

□『アジア文化学科年報』第9号（通巻第21号）2006年11月

《論 考》

清代蘇州における行政と風俗……………大 谷 敏 夫 (1)

—淫祠・賭博に関して—

言語と文字と音楽と……………中小路 駿 逸 (16)

イスラームの世界A……………井 谷 銅 造 1

台湾の食文化に入り込んだ日本……………山 本 祥 子・梅 村 修 (25)

現代ベトナム地理学の構築……………筒 井 由起乃 22

## —北部ベトナムを中心として—

## 《研究ノート》

中国の田螺女房……………鈴木陽子 (40)

『無量寿経論』の諸本について……………辻本俊郎 (63)

## 《資料》

## 二〇〇五年度卒業研究

題目・氏名一覧…………… (70)

修士論文 題目・氏名一覧…………… (74)

各ゼミナール代表作要旨…………… (75)

各ゼミナール紹介…………… (89)

教員のページ…………… (92)

二〇〇五年度秋学期・二〇〇六年度春学期のアジア文化学科…………… (108)

## 編集後記

## □『アジア学科年報』第1号(通巻第22号)2007年11月

## 《論考》

虹影『飢餓の娘』に見る中国現代史……………奥田尚 1

フィールドワークのベンガル湾海域……………重松伸司 20

—マラッカ海峡をわたる 1—

アラサ・ケーサリ・シヴァン……………正信公章 34

—ティンナッパン論考訳解—

『千家詩』に見える伝統的童蒙書(幼学書)の中国語学習

—七言絶句詠春詩を例として……………梁敏兒 (1)

『遊心安楽道』の著者について……………辻本俊郎 (21)

—『無量寿経論』を手がかりとして—

サルノ異類婚姻譚と「白猿伝」……………西川幸宏 (32)

## 《研究ノート》

魏源著「老子本義」「老子本義序」及び「論老子」和訳

……………武田秀夫 (57)

## 《資料》

## 二〇〇六年度卒業研究

題目・氏名一覧	(70)
修士論文 題目・氏名一覧	(75)
各ゼミナール代表作要旨	(76)
各ゼミナール紹介	(85)
教員のページ	(89)
二〇〇六年度秋学期のアジア文化学科・二〇〇七年度春学期の国際教養学部 アジア学科	(105)
編集後記	
□『アジア学科年報』第2号(通巻第23号)2008年12年	
上村祥二先生 御退職記念号	
上村先生のご退休のこと	奥田 尚 (1)
上村先生略歴・著作目録	(5)
《論考》	
京のクリエイティブに学ぶアプレンティス・プロジェクト	
	梅村 修 1
アティラナチャンダ石窟祠堂刻文とガネーシャ・ラタ岩石祠堂刻文	
	正信 公章 11
日宋仏教の交渉について	
	劉 建 (11)
—天台典籍の復還を中心に—	
マッカリ・ゴースーラとサンジャヤ・ベーラッティプッタ〈付〉「漢訳六師 外道資料一覧表」	
	辻本 俊郎 (21)
《研究ノート》	
シリアからの伝言	
	新田 利恵 22
《資料》	
二〇〇七年度卒業研究	
題目・氏名一覧	(33)
各ゼミナール代表作要旨	(37)
各ゼミナール紹介	(49)
教員のページ	(51)
二〇〇七年度秋学期・二〇〇八年度春学期のアジア学科	(57)

追手門学院大学 アジア学会会則…………… (62)

編集後記

□『アジア学科年報』第3号(通巻第24号)2009年12月

《論考》

『日本書紀』の崇仏排仏記事について(下)……………奥田 尚 (1)

—中臣勝海、穴穂部皇子などを手がかりに—

『詩経』に見られる「鳥」の形象、……………金 秀 雄 (12)

—「雅」を中心として—

ダルマラージャ・ラタ岩石祠堂刻文について……………正 信 公 章 1

秀吉と「太閤」—秀吉「自称太閤」論覚書—……………永 吉 雅 夫 (30)

元暁『阿弥陀経疏』における『無量寿経論』……………辻 本 俊 郎 (43)

《研究ノート》

『文草こぼれ話』解説……………李 慶 国 9

宮本輝『錦繡』の中国語訳をめぐって……………李 舒 26

《資料》

二〇〇八年度卒業研究

題目・氏名一覧…………… (58)

修士論文 題目・氏名一覧…………… (63)

各ゼミナール代表作要旨…………… (64)

各ゼミナール紹介…………… (77)

教員のページ…………… (79)

二〇〇八年度秋学期・二〇〇九年度春学期のアジア学科…………… (89)

追手門学院大学 アジア学会会則…………… (92)

編集後記

□『アジア学科年報』第4号(通巻第25号)2011年1月

《論考》

版本『天正軍記』の斉藤道三と義龍の物語……………奥田 尚 (1)

—物語の受容と変形の一例として—

『詩経』「国風」に見られる「鳥」の形象、……………金 秀 雄 (28)

金庸の小説における動物について……………鄭	振 偉	1
清末における政治小説の考察（三）……………李	慶 国	30
王名ラージャシンハについて……………正	信 公 章	46
『無量寿経論』と Bodhiruci ……………辻	本 俊 郎	(53)
《研究ノート》		
改革後のイラン情勢—十四年の勤務を通じて—……………有	吉 宏 之	(67)
アニステーミ〜ある補陀落渡海異聞〜……………重	松 伸 司	(74)
紹興の宣卷—二〇〇九年・馬山鎮寧桑村—……………松	家 裕 子	(89)
《資 料》		
二〇〇九年度卒業研究		
題目・氏名一覧……………		(113)
各ゼミナール代表作要旨……………		(117)
各ゼミナール紹介……………		(128)
教員のページ……………		(131)
二〇〇九年度秋学期・二〇一〇年度春学期のアジア学科……………		(136)
追手門学院大学 アジア学会会則……………		(139)
編集後記		
□『アジア学科年報』第5号（通巻第26号）2011年12月		
《論 考》		
秀吉の生誕と幼少期の追検証……………奥	田 尚	(1)
「ラージャシンハ」詩節について……………正	信 公 章	1
《研究ノート》		
大阪方言の接尾辞「サン」……………櫛	引 祐希子	(20)
陳來著「伝統的儒学の評価と省察」の和訳及びコメント		
……………武	田 秀 夫	(26)
《翻 訳》		
紹興・安昌の宣卷調査……………顧	希佳著、松家裕子・仇俊訳	(40)
『サルヴァシッダーンタプラヴェーシャカ』「ローカーヤタ章」和訳		
……………辻	本 俊 郎	12
《資 料》		

## 二〇一〇年度卒業研究

題目・氏名一覧	(80)
各ゼミナール代表作要旨	(84)
各ゼミナール紹介	(95)
教員のページ	(98)
二〇一〇年度秋学期・二〇一一年度春学期のアジア学科	(106)
追手門学院大学 アジア学会会則	(110)
編集後記	

## □『アジア学科年報』第6号(通巻第27号)2012年12月

## 奥田尚教授 重松伸司教授 退官記念号

奥田先生を送る	永吉雅夫 (1)
重松先生のこと	正信公章 (5)
奥田尚教授 略歴・著作目録	(9)
重松伸司教授 略歴・著作目録	(17)
奥田先生の思い出	武田秀夫 (30)
奥田尚教授：最終授業	松家裕子 (33)
重松伸司先生の思い出	梅村修 (34)
重松伸司教授：最終講義	櫛引祐希子 (39)

## 《特別寄稿》

ブルハーンプルとアシーガル要塞	近藤治 1
ムスリム軍営地と南アジアのウルドゥー語	加賀谷寛 22
孤山を論じて古楽府に及ぶ	高橋文治 (40)
(訳註) 曹溶『明漕運志』(一)	田口宏二郎 (70)
魏志倭人伝にあらわれた卑弥呼観	楠山修作 (91)
略述中日建公史的起源	伊原澤周 27
—以遣隋使小野妹子为中心—	
内藤湖南の「近世文学史論」—漢学と医学—	大谷敏夫 (98)
〈試訳〉Lokāyata 派 Jayarāśi 著 Tattvopaplavasīṃha における Nyāya 派 ātman 説の論駁 〈付〉Tattvopaplavasīṃha 各章翻訳一覧表	
	辻本俊郎 36

## 《論考》

- 王名アティヤンタカーマについて……………正 信 公 章 44
- 《研究ノート》
- ニュージーランドの政治経済状況と行政改革の影響についての一考察  
……………有 吉 宏 之 (116)
- 東晋初期の建康（南京）—烏衣巷—……………武 田 秀 夫 (127)
- 關於《延吉縣志》、《龍井縣志》的研究筆記（一）……………李 慶 国 51
- 中国広州と北京の旅行記、昨今……………奥 田 尚 (144)
- ベトナムの就学前教育にみる社会変化……………筒 井 由起乃 (160)
- 長浜市菅浦と「文化的景観」……………南 出 眞 助 (164)
- 石川県立図書館所蔵小倉文庫の海外神社資料について  
……………山 口 公 一 (168)

## 《資料》

- 二〇一一年度卒業研究…………… (170)
- 題目・氏名一覧
- 修士論文 題目・氏名一覧
- 各ゼミナール代表作要旨…………… (173)
- 各ゼミナール紹介…………… (183)
- 教員のページ…………… (185)
- 二〇一一年度秋学期・二〇一二年春学期のアジア学科…………… (192)
- 追手門学院大学 アジア学会会則…………… (195)
- 編集後記
- 執筆者紹介

## □『アジア学科年報』第7号（通巻第28号）2013年12月

## 武田秀夫教授 退官記念号

- 「君子なる哉、武田秀夫先生」……………楠 山 修 作 (1)
- 武田先生を送る……………永 吉 雅 夫 (2)
- 武田秀夫教授 略歴・著作一覧…………… (6)
- 武田秀夫先生：最終講義……………櫛 引 祐希子 (12)
- 《特別寄稿》

被尊称「近江聖人」的中江藤樹……………	伊原澤周	1
我が教育・研究生活とその時代—思い出すままに—…	加賀谷寛	(13)
「清末黄河治水策」……………	大谷敏夫	(16)
木村常陸介（重茲）とその伝説……………	奥田尚	(31)
幕末・明治期における在横浜・神戸アルメニアン・コミュニティ		
—アプカー商会論—……………	重松伸司	6
枕上のユートピア……………	高橋文治	(50)
（訳註）曹溶『明漕運志』（二）……………	田口宏二郎	(61)
ローカーヤタ派と原子論……………	辻本俊郎	29
《論考》		
パナマライ祀堂刻文における定法の寿ぎについて……………	正信公章	38
国語教育における「方言」……………	櫛引祐希子	46
—方言研究との比較を通して—		
現代英国南アジア系文学にみる帰属意識の変容……………	小松久恵	56
《研究ノート》		
【研究余滴】太閤外伝 備中高松清水誉……………	永吉雅夫	(85)
吳祿貞與《延吉邊務報告》（上）……………	李慶國	65
—關於《延吉縣志》、《龍井縣志》的研究筆記（二）—		
《資料》		
二〇一二年度卒業研究		
題目・氏名一覧……………		(122)
修士論文 題目・氏名一覧……………		(125)
各ゼミナール代表作要旨……………		(126)
各ゼミナール紹介……………		(130)
教員のページ……………		(132)
二〇一二年度秋学期・二〇一三年度春学期のアジア学科……………		(149)
追手門学院大学 アジア学会会則……………		(151)
編集後記……………		(153)
執筆者紹介……………		(154)

## 《論考》

- 追跡、石川五右衛門 第三回 近松門左衛門『傾城吉岡染』  
 ……………永吉雅夫 (1)
- ベトナム幼児教育の基礎—北ベトナム時代の展開から—  
 ……………筒井由起乃 1
- 《研究ノート》
- 吳祿貞與《延吉邊務報告》(下)…………李慶國 18
- 關於《延吉縣志》、《龍井縣志》的研究筆記(二)—  
 『姑嫂双修宝卷』について—宝卷のユーモア—…………仇俊 (23)
- 敗戦直後の海外神社—朝鮮の神社を例に—…………山口公一 (43)
- 「飴っこ」・「飴ちゃん」・「Bombonica」の指小辞…………櫛引祐希子 28
- Four Elements Theory on Ajita Kesakambalin  
 ……………TSUJIMOTO, Toshiro 36

## 《翻訳》

- 【マンジュ語史料翻訳1】ソロン・ダクタナイ＝ニルの根源  
 ……………承志 41
- 中国語詩抄—現代中国の詩人・楊鍵詩三首…………松家裕子 (52)
- アルパナ・ミシュラ「伴侶も友も」…………小松久恵 59

## 《資料》

- 二〇一三年度卒業研究
- 題目・氏名一覧………… (59)
- 各ゼミナール代表作要旨………… (63)
- 各ゼミナール紹介………… (77)
- 教員のページ………… (83)
- 二〇一三年度秋学期・二〇一四年度春学期のアジア学科………… (94)
- 追手門学院大学 アジア学会会則………… (97)
- 編集後記

□『アジア学科年報』第9号(通巻第30号) 2015年12月

## 《論考》

- 室生犀星の昭和十二年前後…………永吉雅夫 (1)

—小説『大陸の琴』を中心に—	
谷崎潤一郎『猫と庄造と二人のをんな』の戦略……………張麗静 (27)	
『(甫庵) 太閤記』巻九の小牧・長久手合戦の叙述の特色について	
……………奥田尚 (37)	
「文明」と「野蛮」の自他認識……………山口公一 (57)	
—近代日本の他者表象—	
ダンディン年代考……………正信公章 1	
《研究ノート》	
金華道情調査報告・その一……………松家裕子 (88)	
—二〇一二年三月・二〇一三年三月—	
〈試訳〉 Lokāyata 派 Jayarāsi 著 Tattvopaplavasimha (〔他学派の主張する〕	
真の实在を打ち砕くライオン) における Sāṃkhya 派 ātman 説の論駁	
……………辻本俊郎 16	
《翻訳》	
アルパナー・ミシュラ「この世界の私たち」……………小松久恵 (21)	
《資料》	
『東洋文化学科年報』『アジア文化学科年報』『アジア学科年報』通巻第1号	
～第30号 総目次…………… 36	
『東洋文化学科年報』『アジア文化学科年報』『アジア学科年報』通巻第1号	
～第30号 執筆者索引…………… 64	
二〇一四年度卒業研究	
題目・氏名一覧…………… (102)	
修士論文 題目・氏名一覧…………… (105)	
各ゼミナール代表作要旨…………… (106)	
各ゼミナール紹介…………… (120)	
教員のページ…………… (126)	
アジア学科共同研究会の記録①…………… (137)	
二〇一四年度秋学期・二〇一五年度春学期のアジア学科…………… (141)	
追手門学院大学 アジア学会会則…………… (144)	
編集後記	